令和６年度　東京都立青井高等学校経営報告

統括校長　加藤 泰弘

令和６年度も引き続き前年度の課題解決を目指し、取組目標として組織的な学校運営、学習指導の充実、希望進路の実現、生活指導の徹底、特別活動・部活動の推進、国際理解教育の推進とグローバル人材の育成、安全教育・環境美化・健康指導の推進、募集対策、広報活動の強化と地域への貢献、経営企画室の学校経営参画を掲げ、それぞれの重点目標及び方策を示した。

昨年度、令和６年度入学者選抜において本校の応募人員は５年ぶりに応募倍率が１倍を超える応募があった。募集対策として新たにＳＮＳを導入したり、足立区教委との中高接続会議等での連携及び中学校への働きかけを強化したりといった活動が功を奏したととらえ、今年度も積極的な募集活動を展開した。しかしながら学校説明会への参加者数は半減し、中学校進路対策連絡会の第一志望調査においても前年度の 0.94 倍から 0.59 倍に下降してしまった。入学者選抜の応募者数も全く振るわず、推薦選抜は前年度比 0.57 ポイント減の 0.88 倍、前期学力検査に至っては 0.69 ポイント減の 0.54 倍という厳しい結果となった。分割後期手続き終了の段階で、募集人員１９７名に対し、１２２名しか決定していない状況である。

また、中途退学者の歯止めもなかなかかからない。本稿執筆時点での年度末現在の推定値が３４名で前年度の数値（２８名）を超える状況である。転退学者を減らすための方策として、令和６年度より実施している「成績回復プログラム」（これまで各教科に任せていた各学期末の補習等を組織的な取組に改め、全教科で学期ごとに単位修得に向けた補講、課題を実施することで無理なく進級、卒業につなげる取組）は機能しているものの、プログラムに参加しない生徒が結果的に進級の見込みがなくなり、進路変更を余儀なくされるという実態がある。各生徒が退学に至る経緯は様々で、むしろ成績不良による退学者はごく少数であり、別の手立てを講じる必要があると考えている。

学校運営や学習指導の面では一層の充実を図った。文科省からＤＸハイスクールの指定を受け、生徒のデジタル分野への興味関心を引き出すことを念頭に、高性能ＰＣ、３Ｄプリンター、デジタル彫刻機、教育用ドローン等を購入し、取組を進めた。年度末ではあるが、講師を呼んでドローン教室を実施し、一定の手ごたえがあったので、次年度はさらに積極的に進めていく。ＳＩＰ（Scientific Inquiry Program）拠点校として２年目となった今年度は、気象予報士による講演会を実施するなど、前年度以上に充実したプログラムを展開し、年度末には本校科学部の生徒が「オールあだち文化祭」（足立区内の高等学校等が一堂に会して日頃の成果を発表するイベント）において、取組成果を発表して締めくくることができた。日常的な学習指導では、授業における毎時間の目標設定やフィードバックを継続していく取組が徐々に浸透し、若手を中心に授業改善が進んだ。生徒による授業評価の数値も比較的高くなっている。

今年度は国際理解教育に取り組む元年となった。都教育委員会の事業である「都立高校生等の海外派遣研修」の派遣校に選定され、１２月に本校の４名の生徒をエジプトに派遣した。派遣前の指導として研究テーマを決めて探究活動を行い、派遣後は全校生徒の前で成果報告会を実施した。都の代表として派遣された生徒たちにとってはかけがえのない経験となり、他の多くの生徒、教員に刺激を与え、来年度は派遣校に選定されなかったとしても、他のアプローチで国際理解教育を進めていく。

部活動については加入率の低さが今年度も課題だが、野球部が合同チームながら着実に力を伸ばしたり、吹奏楽部が定期演奏会を成功させたりなど、一時期よりも活気を取り戻しつつある。ボランティア活動は全校生徒が気軽に参加できる形にして、さらに充実させていく。

なお、学校評価アンケートにおいて、学校生活、学習指導、生活指導、進路指導それぞれの満足度を尋ねる質問にはどれも９０％近くの生徒が肯定的評価をしており、本校の指導方針は概ねプラスに評価されていると受け止めている。来年度も課題改善に向けて積極的に取り組むとともに、入学したすべての生徒が充実した学校生活を送り、希望する進路先を決めて卒業できるよう努力していく。

今年度の取組目標と成果及び課題

取組目標と方策	成果と課題
（１）組織的な学校運営　【重点目標】中途退学者の減少 ア　教職員による生徒一人一人に寄り添った指導を充実させるとともに、学力向上研究校（校内寺子屋）として外部人材を活用し、学力不振、学習意欲の低下、学校不適応等を理由とする退学者を減少させる。 イ　広報活動等を通し、本校の指導方針、生徒の実態等を中学生等に正確に知らせることで、入学者のミスマッチを防ぐ。 ウ　相互授業観察、研究授業、生活指導の事例研究等を中心にした校内研修を充実させ、授業改善、生徒への適切な対応等、教員の資質向上を図る。 エ　青井高等学校いじめ防止基本方針に則り、学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組み、生徒が安心して学校生活が送れるようにする オ　カウンセリング委員会を中心に、都立学校「自立支援チーム」と連携を図り、きめ細かなケアを心がけて中途退学者を減少させる。 カ　英検、漢検等の検定取得を促進する。 キ　スキルアップ講座を拡充し、グローバルスキル講座及びデジタルスキル講座は 1 学年全員を対象とするとともに他学年の受講者数を増加させる。 ク　ＤＸハイスクールとしての教育課程の構築を目指して検討を進めるとともに、文部科学省からの補助金の効果的な執行計画を確立する。 ケ　ＳＩＰ拠点校としての予算を活用して理数教育に係る生徒の興味・関心を引き出す取組を実施する。 コ　「TOKYO ACTIVE PLAN for students」の理念に基づき、体力の向上を図る取組及び部活動の推進を図る校内体制を整備し、体力の向上に努める。 サ　生徒理解を深め、より適切な学校運営に取り組むため、校長が１学年全員に対して個別に面接を実施する。 シ　管理職が率先してライフ・ワーク・バランスを推進するとともに仕事の効率化に努め、教職員の仕事と家庭の両立を応援する。 ス　授業その他の業務に支障のない範囲でテレワークの取得に努める。	《成果》 成績不振によって進級、卒業不可となる生徒を減らすため、年度末に集中していた補習、補講を各学期末に行って単位修得可能な成績に回復させる「成績回復プログラム」を継続させ、成績不良による進路変更生徒をさらに減少させた。 ＳＩＰ拠点校、生徒の海外派遣研修としての取組は多くの生徒の興味関心を引き立たせる原動力となった。 校長が生徒一人一人と面談し、本校の志望理由や現在の校内生活の満足度等を聞き取ることで、校長自身の生徒理解を深めた。 《課題》 「成績回復プログラム」は全ての生徒が積極的に参加するには至らず、実際に回復させたのは対象の中の一部の生徒で、年度末指導を激減させるには至らなかった。 成績不振による退学は減った一方で、不適応等で退学する生徒が増加傾向にあり、新たな策を講じて対応する必要がある。
（２）学習指導の充実【重点目標】基礎学力の定着 ア　各教科がスクール・ポリシーを踏まえ、基礎学力の定着を図る。また、教員相互の授業参観（年２回以上）、研究授業、ＯＪＴの充実を図り、学校の授業力の向上を図る。そのために、教科会を年間スケジュールに沿って開催し、教科指導計	《成果》 多くの教員が授業参観、研究授業の実施、外部での研修受講等の自己研鑽に励み、自身の授業力を向上させた。 毎時の授業で身に付けるべき力を目標として掲げ、授業の終わりに振り返りを実施する教員も確実

画、習熟度別授業、少人数授業、生徒の学習状況を評価検証し教科指導力の向上に努める。 イ　「青井の授業規律」を徹底し、授業規律を確保する。授業者はチャイムに始まりチャイムに終わる授業を徹底する。 ウ　アドバンストクラスにおいては各教科で指導計画の内容を十分に練り、進学・医療系専門学校・公務員試験に対応できる標準的な学習内容や問題演習を行う。なお、評価は定期考査や日頃の学習状況等を他のクラスと調整し、有利不利が生じないよう総合的に判断する。 エ　全学年・全クラスで朝学習を実施し、学習習慣の定着を図る。 オ　習熟度別授業や少人数授業等により生徒一人一人の学力に応じたきめ細かな授業を展開する。 カ　発達障害を含む障害のある生徒を積極的に支援するために、相談態勢の充実等、必要に応じて教育環境を整備する。 キ　到達度テストから理解度を把握するなどして、つまずきの克服を目指した分かりやすくて面白い授業を展開する。 ク　授業では毎回身に付けるべき目標を示すとともに、振り返りの時間も適宜設け、生徒のモチベーションを向上させる。 ケ　主体的・対話的で深い学びに向けた授業を常に意識し、改善に努める。 コ　一人一台端末を踏まえ、ＩＣＴ機器を積極的に活用して生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の定着を図る。 サ　授業等で学校図書館を積極的に活用し、生徒の探究心の向上に努める。 シ　生徒の読書活動を推進するため、読書案内、書評、図書館便り等をさらに充実させる。 ス　新聞ならびに新聞記事検索システムを活用して授業等に生かす取組を推進する。 サ　令和５、６年度「エンジョイスポーツプロジェクト」の指定校として、関係機関と連携を図りながら、保健体育の授業等を通し、個に応じて、運動やスポーツの多様な楽しみ方が学べる指導を展開する。	に増えており、メリハリの利いた授業が増加している。 生徒の端末（スマスクによる一人一台端末）の活用も教科によっては進んでおり、プロジェクターに映し出す方式をやめた教科もある。 《課題》 生徒の学力差が大きく、習熟度別授業においても授業レベルの設定が困難な場合がある。引き続き多様な生徒に対応できるとともに主体的・対話的で深い学びに向けた授業力の向上が必要である。 基礎学力の定着について、通常の授業の他、業者テストを活用して客観的な学力を測り、課題を改善する指導をさらに深める必要がある。 授業規律が守られないクラスがあり、組織で対応した。昨年度に比べ向上はしたものの、一部に授業規律を守れない生徒が存在し、対応に苦慮した。
（３）希望進路の実現【重点目標】第一志望の進路の実現 ア　「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、各教科、学校行事、部活動を通して、キャリア教育を推進し、「社会人基礎力」を身に付け、「キャリア教育で未来を拓く」を実践する。このため、進路指導部にキャリア担当を置き学年との連携を強化する。保育実習等の就業体験の充実を図り、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育む。 イ　都立学校自立支援チーム、足立区就労支援課等	《成果》 生徒の希望進路の確定をできるだけ早めるという取組を昨年度同様に行っているが、生徒によってはなかなか決められない、前向きになれないという者もおり、対応に苦慮した。しかし、担任及び進路指導部が生徒個々の適性を見きわめながら進路指導に尽力した結果、進路決定率は昨年度を上回った。 また、自立支援チームに進路指導主任を加えることにより、課題を抱える生徒の情報が共有され、進路指導面での対応も迅速になった。

と連携し、就職希望者や進路未決定者への支援を行い、進路実現を図る。 ウ　卒業生や外部講師による進路ガイダンス等の内容を充実させ、社会人として必要な知識・マナーや礼儀等を生徒に確実に習得・定着させる。 エ　進路指導部と学年が連携し、作文、論文、面接指導を組織的、計画的に、きめ細かく行うことを通して、論理的に考え、質問に正対して答えられる力を育成する。 オ　生徒一人一人の進路指導の校内サーバーシステム「進路カルテ」「受験報告カード」「青井ポートフォリオ」を有効に活用していく。	《課題》 「進路カルテ」「受験報告カード」「青井ポートフォリオ」の有効活用については、なかなか浸透しない実態があり、引き続きの課題になっている。
（４）生活指導の徹底【重点目標】合理的で社会が認める適切な生活指導の実施 ア　「時を守り、場を清め、礼を正す※」の実践と「青井の授業規律」に基づき、学校生活のルール、社会生活のマナー遵守を指導する。全教員がぶれない指導態勢を確立し同じ姿勢での生活指導を徹底する。 ※「時を守り」遅刻指導（時間厳守）、「場を清め」頭髪指導・身だしなみ指導（制服をきちんと着ることと、化粧、爪への装飾、ピアス等の禁止指導）、「礼を正す」挨拶の励行、登下校マナー　授業マナー　学校施設利用マナー イ　「東京都立青井高等学校ＳＮＳ学校ルール」に基づき、家庭と連携し、教科及び特別活動の指導を通して、スマートフォンや携帯電話等を社会人として適切に利用できるよう育成する。 ウ　生徒が安全な環境の中で学校生活が送れるよう、組織的に安全管理にあたる。 エ　地域の警察署と連携したセーフティ教室等を実施し、登下校を中心とした交通安全指導、携帯電話等の被害や犯罪防止、窃盗等の犯罪防止、薬物乱用防止指導を行う。	《成果》 多くの生徒がルールを守って学校生活を送っており、学校全体の秩序は守られている。ルールを守れない一部の生徒に対しては、学年が中心になって組織的に指導し、改善が図られている。 友人関係や成績等で心に不安を抱える生徒、家庭環境に不安や不満を感じている生徒に対する支援策として、組織としての見守り態勢を充実させた。生命に関わる重大事故は未遂も含めて０を継続させている。 《課題》 特別指導件数が増加し、教員が個別指導に追われた。また、生徒の相談件数は高止まり状態であり、自立支援チームの負担も増加している。巡回指導や校門立ち番等教員の負担を減らす取組を進めたいが、生徒指導上の必要に迫られて取組が進まないという実情の改善を図る必要がある。
（５）特別活動・部活動の推進【重点目標】行事の満足度及び部活動加入率の向上 ア　ホームルーム活動を充実させ、学校行事・生徒会活動等に生徒・教職員が一体となって自主的・意欲的に取り組むことで、生徒の学校への帰属意識を高め、安定・充実した学校生活を送らせる。 イ　校章をデザインした徽章を全生徒が着用することにより帰属意識を高めていく。学校行事や集会の折に校歌を斉唱し、青井高校の生徒であることの誇りをもたせる。 ウ　部活動への加入を促し、達成感を味わわせるとともに良好な人間関係づくりを推進する。 エ　全ての部活動が地域の行事、地域貢献活動等に参加する「一部一貢献」を実施する。 オ　学校行事、運動部活動等を通し、運動する機会	《成果》 体育祭、文化祭等を通してホームルーム活動を活性化させ、帰属意識、仲間意識を向上させるとともに充実した学校生活に寄与した。学校行事によっていわゆる不本意入学の生徒も学校や仲間が好きになっていく傾向にある。 野球部、卓球部をはじめとした部活動における、ＳＮＳの発信、ＳＩＰ拠点校としての取組推進、ボランティア活動など、積極的に声をかけ、活性化、地域貢献等を進めることができた。 《課題》 加入率が前年度より低下し、参加人数が各部とも減少傾向にある。特に文化部が低迷しており、加入者を増やす取組が重要な課題である。

を増やすとともにスポーツの楽しさを体感させる。	
（６）国際理解教育の推進とグローバル人材の育成【重点目標】生徒の海外派遣研修の実施と成功 ア　各教科の特性を生かし、国際理解に触れる内容を取り入れるよう努める。 イ　英語科においてはＩＣＴ機器を活用した指導の充実を図るとともに、ＪＥＴ、ＡＬＴをより一層効果的に活用する授業を構築する。 ウ　生徒及び教員の海外派遣研修参加に向けた取組を推進する。	《成果》 生徒の海外派遣研修校に選定され、校内で選考された４人の生徒を東京都の代表としてエジプトに派遣した。その成果報告により国際理解に対する意識が多くの生徒に広がった。 《課題》 海外派遣以外でどのような取組を進めるか、意図的計画的に取り組んでいかなければならばい。
（７）安全教育・環境美化・健康指導の推進【重点目標】生命に関わる重大な事故、いじめ、不登校等の未然防止 ア　避難訓練、防災訓練、避難所運営訓練における防災活動支援隊等による住民誘導を通して、災害発生時に、自助・共助・公助の適切な行動が取れるよう指導する。 イ　薬物乱用防止、喫煙防止、性教育、食育、生命尊重等、様々な安全教室を実施し、健康的な生活習慣の確立及び健全育成を推進する。 ウ　スクールカウンセラーによる 1 年生全員との面接を行い、生徒・保護者が、気軽にスクールカウンセラーと相談できる態勢を整えることでメンタルケアを充実させる。 エ　カウンセリング委員会を中心として、スクールカウンセラーや外部講師の活用を図り、教職員のカウンセリングスキルを向上させるとともに組織的な教育相談体制を確立し、生徒の悩みの解消、生命に関わる重大な事故、いじめ、不登校等の未然防止を図る。 オ　いじめ対応サポーターを任用し、活用することで、いじめ防止、生徒間トラブル等の早期解決を図る。 カ　特別支援教育に対する研修会等を開催し、生徒理解を深めると同時に生徒の実態に応じて適切な対応ができるようにし、一人一人の生徒の伸長を図る。 キ　教室をはじめとした清掃活動を徹底して校舎をきれいに保つとともに、施設を大切に使う姿勢を育む。	《成果》 足立区、近隣小学校、町内会等と連携し、地域の防災訓練に協力して、地域貢献を果たした。 薬物乱用防止、性教育等、生徒対象の特別講座を積極的に開催し、生活安全と自分の命を守る教育を充実させた。 多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、特別支援教育、発達障害等に係る研修を複数回実施し、教職員の意識向上に努めた。 避難訓練において、できるだけ実際の非常事態に近づけていくため、事前連絡なしの訓練に移行する方針に基づき、生徒に訓練開始時間を告げずに実施した。 《課題》 不登校の生徒、事情があって教室外で授業を受ける生徒等が増加傾向で、教職員の対応が物理的限界を迎えつつある。また、ＳＣ、ＹＳＷへの相談件数も増加かつ相談内容が複雑化しており、慢性的な業務過多状態が続いている。 避難訓練は訓練の開始時間を知らせない取組から先に進まなかったので、よりリアルな訓練になるよう工夫していく。
（８）募集対策、広報活動の強化と地域への貢献【重点目標】前年度応募倍率の維持 ア　合同説明会、学校見学会、学校説明会、中学校や塾訪問等を充実させるとともに、ホームページの更新と内容の充実に努める。 イ　教務部、募集対策委員会を中心に学校内外の募集活動計画を策定して組織的に推進する。	《成果》 学校説明会等での説明に対して、ほぼ全員が納得しており、中学生、保護者に適切な説明ができている。 地域貢献活動は、地域の方々から口コミ等で本校の貢献ぶりをアピールすることにつながり、本校のイメージアップに大きく貢献した。

ウ　募集、広報活動の一環として生徒の活動を紹介したり、生徒自身の声を発信したりするなど、生徒を積極的に活用する。 エ　地域清掃等の地域貢献活動をはじめ、インターンシップ、近隣の幼稚園、保育園、福祉施設等での奉仕活動、避難所運営訓練への参加等を通じて、地域社会との連携、交流を深める。 オ　小学生向けの公開講座を開講等、本校の教育機能と施設を地域・社会に提供することを通して都民の学習、スポーツ活動の振興に貢献する。	《課題》 入学者選抜において、応募者を大きく減らした。募集対策を根本的に練り直す必要がある。
（９）経営企画室の学校経営参画【重点目標】自律経営推進予算の適切な執行 ア　爽やかで誠実、好印象の接遇を目指すとともに、学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画機能を充実させる。 イ　各職員が担当業務に限らず、校内の課題把握に努め、解決、改善に向けた取組を積極的に進める。 ウ　事務担当者に経営企画室長へ業務の進捗状況を報告させ、進行管理を適切に進める。 エ　校内の施設の安全管理及び修繕を積極的に推進する。	《成果》 経営企画室長を中心に適切な業務遂行に取り組み、年間を通して遅滞することなく円滑に各業務を進めることができた。教職員との関係も良好で、大きな課題はない。 《課題》 学校経営参画意識をより高め、課題把握と改善に努めていく。

重点項目の数値目標

目　標	令和６年度	令和５年度
1　入学者選抜分割前後期応募倍率	前期 0.54 倍 後期 0.18 倍	前期 1.23 倍 後期 1.63 倍
2　進路決定率	92.3%	91.0%
3　退学者数	34 名	28 名
4　生徒事故件数（管理内）	２件	３件
5　部活動加入率	35.7%	37.7%
6　ホームページ更新回数	88 回	94 回
7　年間遅刻延べ回数	5815 回	5612 回
8　学校生活充実度肯定回答（生徒）	83.8%	85.8%
9　学習指導満足度肯定回答（生徒・保護者）	80.6%	87.4%
10　生活指導満足度肯定回数（生徒・保護者）	85.0%	87.4%
11　学校行事満足度肯定回答（生徒）	81.8%	88.9%
12　部活動満足度肯定回答（生徒）	68.8%	72.4%
13　いじめ対策への肯定回答（生徒）	77.9%	79.9%
14　進路指導満足度肯定回答（生徒・保護者）	90.3%	88.9%
15　第３学年当初の第一希望の進路先実現率	92.3%	90.0%
16　学校説明会等参加組数	121 組	237 組
17　ボランティア活動への参加生徒数（延べ人数）	127 人	73 人
18　一部一貢献達成率	44%	20%
19　勤務時間外の在校時間が月 45 時間超の延べ人数	105 人	121 人